

新しい風ニュース NO198

やまがたの環境とくらしを考える会 (巻235)
岐阜県山県市西深瀬208 Tel・FAX 0581-22-4989

なんでも相談 どの政党とも無関係の 寺町ともまさ 2008年2月16日

HP ⇒ <http://gifu.kermin.net/teranachi/> メール ⇒ tera-t@ktroad.ne.jp
毎日、何百もアクセスがある私の日記 ブログ は「てらまち」で検索するのが一番はいいです

署名は18日まで。 19日には郵便ポストに投函して下さい！！

「山県市議会議員及び市長等の倫理に関する条例」制定の請求を進めています。

◆ 昨年1月から2月に行った直接請求は、選挙公営の条例、つまり例の選挙ポスター代などを候補者サイドの申請があったとき税金で負担する条例を廃止する請求でした。

今回の議員のボーナスの上乗せ加算問題について、「議員の自主提案で制度を廃止する方向なので、あなたにも一緒に条例改正議案を提案して欲しい」との依頼が先日ありました。他方で、議員と市長の倫理条例については、何も検討がされていません。

署名は「署名年月日」に書いてある日付が「2月18日」までのものが有効で、「2月19日」とかそれ以降の日付のものは無効です。

(署名簿の中の署名欄の見本)				↓不要	
署名年月日	署名者氏名	印	生年月日	昭印(姓印)	番号 備考
住所 山県市			断 山県市		
署名日 月 日	氏名	印	明大昭西暦 年 月 日	昭 印 断晒 年月日	-----

↑日付注意

↑氏名だけは自分で記入

代筆者用↑通常は不要

署名は、ご家族などの分だけでも、お一人分でも結構です。収集を終えられた署名簿は、まことに申し訳ありませんが、**2月19日(火)までに返送**してください。

◆ 直接請求という制度の説明

ひとことでいうと、ある条例を作ったり改正や廃止してほしいとき、

「受任者」が持つ「署名簿」に「有権者」が「自署」して集まった「署名簿」を提出、その後、「市長」が「議会を召集」し、「条例案」を議会が審議して決定する制度。

今年最初の山口市議会 3月定例会 関連日程

2月20日、21日	特別委員会	22日	議会運営委員会	25日(月)	全員協議会
3月 3日(月)	定例会開会	4日(火)	一般質問提出期限・議会運営委員会		
10日(月)	議案質疑の本会議	12日(水)	13日(木)	14日(金)	常任委員会
17日(月)	18日(火)	一般質問	19日(水)	委員長報告・討論・採決	閉会

**署名集めにご協力いただける方は、知り合いに声をかけていた
だいたり、まとめて返送などいただけると、とても助かります。**

山県市民の直接請求は、昨年3月には選挙公営条例の廃止に、4年前の2003年には「選挙の時の候補者の政策や人柄を紹介する『選挙公報』の発行」につながりました。

↓ ↓ 当時のニュースの一部（2003年12月） ↓ ↓

選挙公報の実現を！

ニュース第9号
《発行》 2003年12月21日
「新しい山口市に選挙公報を実現する会」
連絡・問合せ先 寺町ともまさ
〒501-2112 山口市西深瀬208
TEL・FAX 0581-22-4989
E-mail tera-t@ktroad.ne.jp

※ご意見やカンパを！

選挙公報の条例が制定されました！

11月19日に市役所に請求代表者7人の連名で、請求しました。
私たちの請求の開始をきっかけとして、市は「山口市選挙公報の発行に関する条例」を12月市議会に提案、議会は最終日の19日（金曜日）、条例案を可決しました。来年4月の市議会議員選挙で、初めて選挙公報が発行されます。

署名へのご協力、ありがとうございます

若い世代の定住策 / 乳幼児医療費の助成の拡充は重要

(質問／寺町) 若い世代の定住策としての乳幼児医療費の助成の拡充は重要だ。自治体合併前の旧山県郡は県内でも上位。しかし**合併して中位に下がった**。県は知事が替わって少子化対策に重きをおき、乳幼児医療費の「通院・外来費」と入院医療費を小学校入学前(就学前)までに引き上げた。この市町村負担が不要になった分を年齢・範囲を引き上げにまわす、例えば**高山市は既に入通院も中学卒業まで、羽島市も来年4月から同様にする**。

山県市の単独支出は、合併時2003年H15年度の年間約4000万円が、昨年H18年度約500万円、今年度約250万円と減ってきた。理由は、県が減額した障がい者や重度の方への制度の現状維持のために充当しているからだという。とはいえ、市は今年度、小学校6年生までの「入院費」助成を独自に上乘せして前向きだ。外来費は小学校入学前まで100%助成中。「入院費」の市の来年度の予定と**そのための必要額はどの程度か**。

(答弁・保健福祉部長) 若い世代の定住は、市の活性化に欠かせない要素の一つで本市としても次世代育成行動計画「やまがたっ子すくすくプラン」に沿って各種のサービスを実施してきている。特に抵抗力の弱い乳幼児の医療費助成は子育て世帯に平均に行き渡る経済支援策として意義あるものと考えている。(来年度は)義務教育終了までの入院費を予定しており、その必要額は266万円と試算している。

(質問／寺町) 「小学生6学年分」及び「中学生3学年分」の「外来費」はそれぞれ、どれほどと推測されるのか。2008年4月から医療制度改革で3歳以上小学校入学前までの患者の自己負担は1割減(3割から2割)になるが、相殺分はいくらと試算できるか。

(答弁・保健福祉部長) 国保の年齢別の診療費をベースに積算したところ、「小学校6学年分」の必要額は3,772万円、「中学校3学年分」の必要額は1,353万円と推測される。また、医療改革での相殺分は、1,055万円と試算している。

(質問／寺町) 若い世代の定住策の促進は街づくりに大きく貢献する。これら背景を考えれば、「外来費」の助成年齢の引き上げは重要な政策・事業として実施すべきではないか。

(答弁・保健福祉部長) 「外来費」の助成年齢の引き上げは、今後、県及び他市の動向を見ながら医療費の助成拡充を検討してまいりたい。

(再質問／寺町) 今年10月1日現在のデータでは、県内42市町村の中で山県市は30数番目。合併してどんどん落ちている。今年は(予算が)少し増えたが順位は変わらない。それはよそが頑張って増やすからだ。若者に魅力あるまちにしたいということ。

これはやはり、市長が政策として山県市はどういうふうな方向をとるのか、そこだ。財政は厳しいからすべて減らす、ではなく、これは増やす、これは維持する、これは減らす、

→ そのメリハリ、その中で子どもたちに対して、あるいは若い世代に市長がどのようなスタンスでいるのか、その現われた。今後、来年、それ以降、基本的にどうしていくのか。

(答弁／市長) 額がだんだん下がったという発言があった。県自体も少子高齢化になって、今まで市が負担していた分を県が肩代わりした面もある。他市の状況もそういった例もあるだろう。市の財政規模から言って適正に処理していけるように十分検討していくことが大切。いずれにしても、少子化高齢化の時代になったので山県市の施策の中の重要事項にとらえていて、きめ細かく対応していきたい。これからの予算編成にも反映していく。

2007.12.5 朝日新聞

第3種郵便物認可

粘るイモを二十数年前から作っている。
このイモの仲間には、中長や扇形のヤマトイモ類、球形のマルイモ類、細長いヤマイモ類。ヤマイモは、大ざっぱに言えば3タイプある。山野に自生する本物のジネンジョ、粘りが比較的少なく最も商品化されているナガイモ、両者の中間的な形や性質のヤマイモだ。
私は長年、ヤマイモを主体に作ってきたが、掘り出すのが大変だ。スコップの長さほどにも伸びていた

いも セカンドステージ

有機農業家 寺町 知正



パイプ栽培、楽しく手軽

ら、真冬でも汗が出る。
3年前の春、水道管を細工したような灰色のパイプを見かけた。想像をかき立てる形状。作り方を調べた。長さ1メートル以上のパイプをゆるく斜めに埋めるから収穫しやすい、その発想と理屈に驚嘆した。
さっそく植え付け、年末に初めて掘ってみたら、なんと手軽で楽しいこと。長さ1メートル前後のイモがスツ、スツと掘れる。パイプ栽培にはまった。
今年はジネンジョの種イモを通信販売で60本も手に入れ、植え付けた。先日、試しに掘ってみた。数本のつもりがホイホイワクワク楽しいから、続けて15本も抜き出してしまった。もちろん、味は絶品だ。
畑の仕事は、作付けも収穫も楽しい。中でも、この「ヤマイモのパイプ栽培」

なら、収穫の喜びも最高級だ。この横に長く作る山芋は、やせた畑でもどこでもできそうだし、農の暮らしにメリハリを付けるには持っていた。
ヤマイモ類の植え付け適期は春の桜の花が咲く頃。この連載が続いていけば、その時期に改めて作り方のカンどころや妙味を紹介したい。
ともかく、楽しみは待つものではなく、自らつくり出すもの、というのが私の持論だ。

この新しい風ニュースの前回「No. 197」から転載し始めたのが、朝日新聞の県内版の私のコラムです。

全国の新聞の購読数は、日本新聞協会などのデータでは、およそ

1.	読売	1000万部	20%
2.	朝日	800万部	16%
3.	毎日	400万部	8%
4.	日経	300万部	6%
5.	産経	200万部	4%

東海地区では中日がダントツ、岐阜県内でも中日、岐阜と続きます。

この全国2位、県内では中位の朝日新聞の岐阜県内版の紙面を2007年11月から刷新するために、新しい企画が進められたそうです。

その一連で、私にも、隔週水曜日にコラムを書くように依頼がありました。新しいことをしたいという新聞社の趣旨に賛同。昨年11月から書いています。いろんなところに行っても、「読んでますよ」「おもしろい」とか言われて、さすが「執筆原稿」は「報道記事」とは違うと感じています。時期が遅れますが、少しずつ紹介していきます。